

a 学校教育目標	自らの夢に向かって考え、行動できる子供の育成 —自ら伸びる ともに伸びる—	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 自分で考え、みんなと考え、行動できる児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 児童、教職員、保護者が「自ら伸びる ともに伸びる」という教育風土を持った学校 ・基礎・基本が定着し、児童が主体的・対話的に深く学ぶ姿がある学校 ・児童が夢や志をもち、安心して生活できる学校
----------	--	----------------------	---

評価計画					自己評価				改善方針	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント
					h 達成	h 達成					イ	ロ	ハ	
確かな学力	基礎学力の定着を図り、主体的に学ぶ力を育成する。	「話す活動」「書く活動」の充実 基礎・基本の反復練習の徹底	国語科・算数科・理科の単元末テストの結果(各学期)	各学期 各教科 知識・技能平均85点以上 思考・判断・表現70点以上	83%	100%	100%	A	知識・技能及び思考・判断・表現において、どの教科も目標値を超えた。語彙量を増やすために、読書活動を推奨や帯タイムでの取組が一定の成果をあげていると考えられる。また、日常生活でも意識的に正確な言葉を使い、子どもたちと接していることも効果があったのではないかと考える。	効果があったと考えられる取組については、今後も継続していく。目標値は達成しているが、算数科の思考・判断・表現の数値が低いため、算数科の指導についてより一層改善を進めていく必要がある。系統的に指導できるよう職員研修等を行う。	○	ハ	○全児童の学力向上に向け、帯タイムでの取組や個別支援の必要な児童への取組に全教職員でかわり、やり切らせていることが成果となって出ており、すばらしい。今後とも基礎学力の確実な定着を求め、しっかりと鍛え上げていきたい。落ち着いて読書ができるように図書館の環境を整え読書の習慣化につながる学びの姿勢ができてほしい。課題がある子への取組を職員全体で行っていることは、チーム力であり教育の質の向上につながっていると感じます。中学校に向け、自主的に自ら求めて学習を行うこと、特に高学年の児童には、家庭での学習習慣の定着や効果的な学習方法の習得に向けた指導をお願いしたい。	
			市標準学力調査(NRT)[知識・情報、思考力]	偏差値平均前年度以上 (同一集団による比較)	30%	30%	30%	D	昨年度より伸びていたのは算数3年・算数4年・算数6年であった。繰り返し基本的な計算などを行ったり、全校で2年生のかけ算九九にとりくんだりしたことが結果につながっている。一方、国語ができなかった原因として、語彙の少なや主述の関係に係る理解不足等が考えられる。	授業や帯タイムにおいて、国語の文法や算数の四則計算など基礎基本の問題や読み取る経験を積ませるために読解問題にも取り組む。1年生の20までの加減計算、2年生のかけ算については、全校での取組としていろいろな職員がかわって定着を図っている。来年度の結果を基に改善方針を検討したい。				
			児童アンケート「学び合いを通して、自分の意見を友達に伝えることができましたか。」「[表現力、主体性]	肯定的評価80%以上	91%	90%	113%	A	引き続き、授業の中に「学び合い」を位置づける授業を展開した。子どもたちは、少しずつ自分に自信をもっていき、相手に分りやすい伝え方、話し、書く場面から指導を行った。共感的な聞き方については、十分に指導することができなかった。	引き続き、授業の中に「学び合い」を位置づける授業を行っていく。相手を意識した伝え方や書き方、会話のキャッチボールができるよう聞き方の指導も行い、表現力のさらなる向上を目指す。				
豊かな心の育成	自分を愛し、共感する力や思いやりの心、協力し合う態度を育てる。	「挨拶」「返事」「靴そろえ」の強化月間の実施	教職員及び児童アンケートによる評価「4段階3評価以上」(4月・9月・1月)	肯定的評価全項目平均80%以上	92%	90%	113%	A	児童会が月ごとに児童会目標を立てて、挨拶、返事、靴そろえの呼びかけに取り組んだ。各クラスの振り返りや声掛け等もあり、児童が主体的に取り組むことができたのではないかと考える。	来年度は、子供たちが自分のよさを発揮しやすいような環境を設定する。例えば、児童会の取組として、「〇〇名人」を行う。これは、学級で音読、漢字、計算など達成が少し難しいような個人目標を設定し、それが達成できた児童を全校集会や放送などで紹介するものである。学級内で見つかったよさを全校に広げ、他学年からも自分の良さを認めてもらう機会を増やしていく。	○	ハ	児童会を中心に子供たちの主体性を育てつつ、地道な取組をやり切らせていることが、児童の個々の成長や集団づくりにつながっており、すばらしい。	
			児童アンケートによる評価「自分にはよいところがある」(4段階3評価以上)(4月・9月・1月)	肯定的評価全項目平均80%以上	84%	81.0%	103%	A	キラキラカードの取り組みの継続により、友達に自分のいいところを見ることができた。しかし、友達のいいところの内容が画一的で、似たような内容が多くなってしまった。					
			児童アンケートによる評価「自分にはよいところがある」(4段階3評価以上)(4月・9月・1月)	肯定的評価 80%以上	74%	76%	95%	B	体育研修や体育開始時の運動の工夫改善を図った。その結果、男子は4学年、女子は全学年で記録が上昇し、目標値に迫ることができた。測定が1月で寒い時期だったため体が動かしず数値の伸びが現れなかったのではないかと考える。	今後も職員研修を行い、体育の授業の充実を図る。また、休憩時間に学級遊びや学級で目標を決めた取組を行うなど、楽しく体を動かすことができるような場面を意図的に設定していく。今後も体育授業や休憩時間等、様々な場面を活用し「体を動かすことが楽しい」「運動が楽しい」という気持ちを育み、健康の保持増進と体力の向上につなげていく。				
働きの改善	学習指導要領改訂や新たな教育課題等に適切に対応できる学校体制を構築し、教育の質の向上を図る。	地域・保護者が有する教育力との連携を図り、地域に開かれた教育課程の実現を目指す。	地域の教材化、地域人材活用の推進	地域の教材化と地域GT招聘の実施回数による評価	各学年年間2回以上	100% (9月末現在でのべ8回実施)	100% (1月末までのべ21回実施)	100%	A	各学年ともに広島空港との連携や地域人材の招聘・コミセン祭りへの参加など、計画通り実施し、積極的に推進できた。	○	ハ	働き方に対する教職員の意識も醸成されてきており、在校時間の縮減にもつながっている。学校経営のすばらしさの現れだと思えます。	
		教職員の長時間勤務を縮減し、健康で生き生きとやりがいをもって勤務できる環境づくりを推進する。	成績処理や教材研究の時間の確保、業務のシェアリング推進、業務改善の継続的実施	市の「学校における働き方取組方針」の「勤務上限の目安時間」の達成(時間外の勤務時間が、月45時間を超えない。)	100%達成	92%	92.0%	92%	B	教職員の時間外勤務時間月45時間以内の達成状況は1月末時点で92%だった。				水曜日の定時退校日の完全実施や学期末の成績処理日の設定等、制度面からの業務改善に努めた。また、月の途中で職員全体の勤務時間を確認し声かけ等を行っていくなど日々の意識向上にも力を入れた。

【j:自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
【l:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。ハ:分からない。